

平和への誓い

わたしたちは、信じることができませんでした。六九年前の八月六日、この広島に原子爆弾が落とされ、多くの尊い命が奪われたことを。五歳だった祖父は「地獄のような光景が今も目に焼きついている」と語ってくれました。

広島に育つわたしたちは、広島の被害、悲しみ、そして、強さを学びました。爆風により、多くの建物がくずれました。家や家族を失い、ふつうの生活がなくなりました。その中で、水道は一日も止まることなく、市内電車は、三日後に再び走りはじめました。広島の人々の努力によって、町も心も復興したのです。

悲しみや苦しみの中で、生きることへの希望を見つけ、生き抜いた人々に感謝します。当たり前であることが、平和なのだと思がつかしました。

ある語り部の方の言いました。「小さなことから始めてほしい」

わたしたちは、もう行動をはじめています。友達を大切に、優しく接しています。家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。平和の思いを込めて、毎年千羽鶴を折り、慰霊碑に捧げています。平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。平和を考えることで、仲間とつながりました。わたしたちは、できることから始める勇気をもつことができました。

Welcome To Hiroshima みなさんをここ広島で待っています。平和について、これからについて、共に語り合い、話し合いましょう。たくさん違う考えが平和への大きな力になることを信じて。

平成二六年八月六日

広島市立牛田小学校6年

田村 怜子

広島市立尾長小学校6年

牟田 悠一郎